

会派行政視察報告書

周南市議会議長

小林 雄二 殿

平成 29 年 7 月 7 日

周南市議会 公明党

報告者 遠藤伸一

平成 29 年 7 月 4 日（火）から 7 月 6 日（木）にかけ、周南市議会公明党議団で下記内容の行政視察を行いましたので、その概要を報告いたします。

—記—

- 1 日時 平成 29 年 7 月 4 日（火）から 7 月 6 日（木）
- 2 内容 ①金沢型学校教育モデルについて
②ちょこっとバス・ちょこっとタクシーについて
③中心市街地拠点整備事業について
- 3 参加者 議員 3 名 会派「公明党」
相本政利、金子優子、遠藤伸一

※詳細は別紙報告書及び添付資料のとおり

以上

周南市議会 公明党 行政視察日程案 (平成29年7月4日～7月6日)

〔 集合場所：徳山駅新幹線口 2階 新幹線改札前 集合時間：7月4日 (火) 午前 7 時 30 分 〕

月 日	行 程	備 考
7/4 (火)	<p>新幹線のぞみ6号・東京行 特急サンダーバード13号・金沢行 タクシー (約15分)</p> <p>徳山 ——— 新大阪 ——— 金沢駅 ——— (昼食) ——— 《金沢市役所》 —</p> <p>7:55 発 9:38 着 9:46 発 12:17 着 視察 14:00～15:30</p> <p>タクシー (約15分)</p> <p>————— ホテル ——— (夕食)</p> <p>18:00～</p> <p>(金沢市泊) ホテルレイトイン金沢駅前 金沢市昭和町2番5号 ☎076-232-3111</p>	<p>金沢市役所</p> <p>〒920-8577 石川県金沢市広坂1丁目1-1</p> <p>☎ 076-220-2111</p> <p>【視察事項】</p> <p>金沢型学校教育モデルについて</p>
7/5 (水)	<p>徒歩 (約7分) JR特急しらさぎ56号・米原行 近江鉄道本線・貴虫川行 公用車送迎</p> <p>ホテル ……………金沢駅 ——— 米原駅 ——— 八日市駅 ——— (昼食) ———</p> <p>8:48 発 10:45 着 11:19 発 12:08 着</p> <p>ちよこつとバス 近江鉄道本線・米原行 こだま674号・東京行 徒歩 (約6分)</p> <p>《東近江市役所》 ——— 八日市駅 ——— 米原駅 ——— 三河安城駅 ——— ホテル</p> <p>視察 13:30～15:00 16:12 発 17:07 着 17:30 発 18:10 着</p> <p>(安城市泊) ホテルグランディアアラ安城 安城市三河安城南町1丁目8番地11 ☎0566-72-1122</p>	<p>東近江市役所</p> <p>〒527-0023 滋賀県東近江市八日市緑町10-5</p> <p>☎ 0748-24-1234</p> <p>【視察事項】</p> <p>ちよこつとバス・ちよこつとタクシーについて</p>
7/6 (木)	<p>送迎 (約12分) 送迎 (約10分) こだま647号・名古屋行</p> <p>ホテル …………… 《アンフォーレ》 ——— 三河安城駅 ——— 名古屋駅 ———</p> <p>8:30 発 現地視察 9:30～11:00 13:03 発 13:15 着 13:33 発</p> <p>のぞみ109号・広島行 こだま745号・博多行</p> <p>————— 広島 ——— 徳山駅</p> <p>15:50 着 15:54 発 16:21 着</p>	<p>アンフォーレ (現地視察)</p> <p>〒446-0032 愛知県安城市御幸本町12番1号</p> <p>【視察事項】</p> <p>中心市街地拠点整備事業について</p>

2017年7月会派視察報告－1.

公明党 相本 政利

『視察先』	石川県金沢市役所
『視察内容』	金沢型学校教育モデル
『視察日時』	2017年7月4日（火） 15時00分～16時30分
『対応者』	金沢市教育委員会学校指導課 作田芳太郎主任指導主事 同上 池端重紀 主任主事 金沢市議会事務局議事調査課 中宗朋之 課長

「所感」

教育行政先進地の金沢市で進められている平成28年4月からスタートした「金沢型学校教育モデル」を視察させて頂いた。

基本理念を『明日を拓き社会を担う金沢発のひとづくり～「心」と「力」を育む学校教育』とした金沢市学校教育振興基本計画を平成27年1月に策定された。その施策として、何を学ぶかという内容として＝金沢型学習プログラムを。どのように学ぶかという方法として＝金沢型学習スタイルを。そして、それらを支える土台となる「金沢型小中一貫教育」の3要素で構成されている。それら3要素の目標は「めざすべき金沢の子ども像の実現」とのことでした。

学習プログラムでは、金沢ベーシックカリキュラム、金沢ふるさと学習、金沢絆活動等、目新しいものではなくこれまでの取り組みを総括的にまとめて「自分でみんなで考える」金沢型学習スタイルにしたこと。それに加えて小中一貫教育を土台にしたことで、各学校の生徒や教員の連携、家庭や地域の理解・協力を得られたことが教育行政のモデルとなる事業の推進につながっていると感じた。

質疑の折にも、学習面ではアクティブ・ラーニングを重視された取り組みや教員用の解説資料や教員間交流等を自然な形で導入されていると伺いこれまでの金沢の教育文化の高さを痛感させられた。その教育土壌（風土）に支えられている面も大いにあると感じたが、本市にも金沢市に 負けない教育風土があると考えている。後は導入に対する熱意を導けるよう私自身もしっかり教育行政を学びめざすべき周南の子ども像の実現を提案していきたい。

『視察先』	滋賀県東近江市役所		
『視察内容』	コミュニティバス（ちょこっとバス・タクシー）について		
『視察日時』	2017年7月5日（水）	13時30分～15時00分	
『対応者』	市民環境部交通政策課	大田久男	管理監
	同上	須田良行	係長
	議会事務局	松村栄士	書記
	公明党市議会議員	竹内典子	市議会議員

「所感」

今回視察先として選定させて頂いた理由としては平成17、18年で合併（1市6町）。市広域面積は388.37k㎡にも関わらずコミュニティバスの形態を確立・運用されている情報を得て伺いました。

合併時の申し合わせとして、公共交通の空白地なし。を目指すとのことで、東近江市コミュニティバス第1次編成計画を策定し平成19年4月1日から運行を開始したとのこと。

交通インフラとして、鉄道は近江鉄道とJR琵琶湖線があり、路線バスは幹線である民間3路線+委託運行1路線があり、これらを補完する形でコミュニティバス（ちょこっとバス=10路線、ちょこっとタクシー12路線）があり、またタクシー会社4社も運行しているとのこと。ちょこっとバス・ちょこっとタクシーは旧市町の福祉バス等の再編で運行形態としては比較的スムーズに確立できた印象でした。現在は利用状況が年々低下しているため3年毎に需要に見合った効率的な運行計画に見直ししているとのこと。平成29年4月からは第4次再編計画を5年計画で進めているとのこと。収支構造として市の負担部分はバスで8,185千円/年（全体の59%）、タクシーで1,526千円/年（全体の62%）ことだが現首長は今後も継続の意向とのことでした。

本市の公共交通網形成計画に「公共交通ネットワークの将来イメージ」が掲載されているが東近江市ではネットワークは既に平成19年4月に確立されており、利便性を求め再編を繰り返されている状態でトップのリーダーシップも重要だが再編を実行されている職員の熱意や能力の高さに驚愕した。

2017年7月会派視察報告－3.

公明党 相本 政利

『視察先』	愛知県安城市役所		
『視察内容』	中心市街地拠点整備事業について		
『視察日時』	2017年7月6日(木)	9時30分～11時00分	
『対応者』	安城市アンフォーレ課	横手憲治郎	主幹
	同上	沓名広紀	係長
	同上	水上貴夫	担当

「所感」

中心市街地拠点整備事業として視察させて頂き、最初に事業の背景、経緯及び事業概要について座学いただき、6月初旬より開館した複合施設「アンフォーレ」内も視察させて頂きその賑わいに感嘆した。

安城市は、市広域面積が86.05km²。平成29年現在の人口は18万7千人で未だ人口微増が継続されているとのこと。財政的にも歳入の市税収入が55%を占め、地方交付税不交付団体でもある。と伺ったが、名古屋周辺のベッドタウンの要素よりもトヨタ系関連企業の好況によるものと推察する。

本年6月開館した複合施設アンフォーレの敷地は元更生病院跡地で、平成22年の中心市街地整備基本計画で図書館に決定し、平成24年の整備事業計画でPFI事業が決定したとのこと。公共施設部分のアンフォーレは図書館やホール、商業施設などの複合施設で交流や活動の場とし、その事業形態は15年間のPFI方式とのこと。隣接する民間駐車場と民間商業施設は20年間の定期借地方式と伺った。

アンフォーレ施設の建設と施設維持管理はPFI方式で行い、図書館運営は市直営で行っているとのこと。財政的に余裕があり市民サービスを主眼にされた事業形態が伺える。オープン当初でもあり高齢者、子育て世代等様々な世代の方が来館されていた。中心市街地の賑わいの創出・活性化寄与については、基本的にアンフォーレで賑わいの創出を実行した。後は商店街の自己努力を後押しするスタンスと垣間見えた。

金子 優子

① 日時) H29. 7. 4 14時～15時30分h

場所) 金沢市役所

視察項目) 金沢型学校教育モデル

【内容・所感】「金沢型学校教育モデル」では、学習プログラム、学習スタイル、小中一貫教育の3つの柱で取り組んでおられ、児童生徒が自発的に学んでいくように学校、地域が関わっておられると感じた。教職員の負担の面が気になるところだが、軌道に乗れば逆に負担は少ないとのことだった。元々教育に力を入れている土地柄で、本市ですべてを取り入れるのは、現時点では難しいと感じた。小中一貫教育での中一ギャップへの効果はあまり無いとのことで、意外であった。

② 日時) H29. 7. 5 13時30分～15時

場所) 東近江市役所

視察項目) ちよつことバス、ちよつことタクシー

【内容・所感】東近江市では、民間バス路線が3本しかなく、そのため指定管理でのコミュニティバス、タクシー運行を始めたとのこと。中山間地域を除いて、本市の状況はまだ恵まれていると感じた。しかし、高齢化が進んでいく中、交通手段の確保を急がなければならないことには変わりなく、公共交通も含めての計画、実施を急ぐべきと感じた。

③ 日時) H29. 7. 6 9時30分～11時

場所) アンフォーレ(複合施設)

視察項目) 中心市街地拠点事業

【内容・所感】図書館などの公共施設やホール、商業施設などからなる複合施設で、中心市街地の活性化のため整備。6月1日のオープン時、4日間で4万7000人、現在まで平日平均3000人、土日は8000人と好調である。本市も、来年2月の駅ビル図書館のオープンがあり、人が集まる施設として期待できる。本市と同様に、アンフォーレでも人の流れを周辺の商店街へつくるのが課題だとのことで、今後の取り組みも参考にしたい。

周南市議会公明党 会派視察報告書

周南市議会公明党 遠藤 伸一

H29.7/4～7/6

7/4 (火) 石川県金沢市役所 14:00～15:30

「金沢型学校教育モデル」について

【所感】

平成 27 年 1 月に「金沢市学校教育振興基本計画」を策定しこの計画の基本理念や、めざすべき金沢の子ども像の実現に向けて、取り組むべき施策の考え方を重点化・焦点化し知・徳・体の調和のとれた子どもの育成や金沢への愛着と誇りが持てる教育を推進していくことが大切であると考え、平成 27 年 7 月に新たな学校教育モデルを構築し、高い教育水準の確立を目指している。

金沢型学校教育モデルは子供たちが何を学ぶかという内容として「金沢型学習プログラム」、どのように学ぶかという方法として「金沢型学習スタイル」、それらを支える学びのとし土台として「金沢型小中一貫教育」の 3 つの要素で構成される。

めざすべき金沢の子ども像を明確にし、その実現に向け教職員が共通認識を持ち、保護者や地域と連携しながら推進されている。

金沢の歴史や文化が「教育」という分野にも浸透しており、この教育モデルを策定する「土台」ができていたのではないかと考える。

「どのように学ぶか」といういわゆる、アクティブ・ラーニング（主体的・協働的な学習）についてもすでに古くから金沢の教育文化として定着していたとお聞きした。この教育施策が推進し、定着していけば学校や教職員が抱える諸問題（過重労働等）の解決につながるという期待が持てるように感じた。

本市においてはこういった新たな教育方針に対しプログラムの策定や授業現場における専門的な教職員の育成など、負担が一時的に増えることになるが、まずは「市全体としての教育観」を醸成する必要があると考える。

7/5 滋賀県東近江市役所 13：30～15：00

ちょこっとバス・ちょこっとタクシーについて

【所感】

東近江市は、平成 17 年 2 月の 1 次合併で 1 市 4 町が、平成 18 年 1 月の 2 次合併で 2 町が合併し現在の東近江市となった。滋賀県の南東部に位置し、京阪神と中京都市圏との中間にあたる。面積は 388.37 km²で周南市の 5 分の 3 の面積である。

人口減少、高齢化社会にあって、持続可能な公共交通網の形成は本市においても必要不可欠である。公共交通空白地のないまち、環境にやさしいまち、バス交通を活かすまちをコンセプトにそれぞれ運行形態、路線、ダイヤ、バス停の改善による公共交通空白地の解消と利便性の向上を図り、にぎわいを創出するイベントの開催や鉄道との連携強化など市民サポーターの協力も得ながら事業の展開をされている。

広域交流路線（各拠点から主要鉄道を結ぶ路線）、生活圈維持路線（拠点内の生活圏内で駅、病院、買い物施設に通じる路線）とに分類した運行計画を策定しており平成 29 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日までの 5 箇年間で第 4 次再編計画としている。

現行制度では一律 200 円の料金設定とされており、今後の課題として需要に見合った効率的で利便性の高い運行形態の確立、より一層のバス・タクシー事業者との連携強化、さらには市民自らが公共交通を守り育てていく機運を高めるために、就学前、小学校低学年児童の時からバスに親しんでもらうようなイベントを開催するなどのマイバス意識の醸成を図ることなどを挙げられている。

本事業は「福祉」・「高齢者生活交通」の観点からも必要な施策であり、本市の立地適正化計画や、その他の計画との整合性を持ちながら早期に実施すべき事業として提案したい。

7/6（木）愛知県安城市アンフォーレ 9：30～11：00

中心市街地拠点整備事業について

【所感】

更生病院の移転に伴い跡地利活用の議論がなされてきた。平成 19 年 10 月の中心市街地拠点整備構想策定懇話会提言から始まり基本構想、基本計画（素案）、事業計画、実施方針の公表、特定事業選定、P F I 事業基本協定の締結、設計業務の実施、建設業務の実施、等の経緯を経て平成 29 年 6 月 1 日に図書館機能を有する広場、公園、商業施設などからなる複合施設アンフォーレを開設。「学び。健やか・交わりの場」として多様な交流と活動を促進し、中心市街地の賑わいの創出・活性化を目指す事としている。本事業の概要として、敷地面積 12,305 m²（建設用地 7,415 m²、広場 3,890 m²、公園 1,000 m²）で事業方式は公共部分（情報拠点施設、広場、公園）は P F I 方式（※PFI とは、Private Finance Initiative（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）の略で、公共施設等の建設・維持管理・運営等を民間部門（プライベート）の持つ経営ノウハウや資金（ファイナンス）を活用することで、低廉かつ良質な公共サービスを提供することを目的とした新しい公共事業の手法）

民間収益施設（提案施設、駐車場）は定期借地方式。事業期間としてPFI事業は平成26年3月24日から平成44年5月31日まで、定期借地事業は平成28年6月1日から平成49年5月31日までとなっている。

乳幼児や就学前児童がお母さんと共に参加できるサロンを開講していたり、授乳室やおむつを替える部屋なども常設され、見学中も子育て世代の若いお母さん方の姿が目立った。当該施設を利用後には併設された商業施設での買い物へと自然に誘導する仕組みになっている。また、非常に開放的な空間・装飾デザインでPFI設計による良い面を感じることができた。説明によると平日で3,000人、土日で8,000人の来館者があり年間100万人の来館者に期待しているが当面は推移を見守りたいとの話であった。集客という「点」を中心市街地活性化の賑わいという「面」への人の流れの創出は行政主導の施策だけでは限界があり民間の努力なしには真の意味で成果を上げることはできないとの話に、本市においても、行政と民間が一体となって市街地活性化へ向けての協議、取り組みがより一層必要であると感じた。